



2010年1月1日掲載

## 讃岐紀行／500系編

2010年最初となる「つれづれWEB」。昨年11月に、家族3人で行った香川県の旅行の様を「讃岐紀行」としてお送りしよう。

元々、今回の旅行のきっかけは、2010年春のダイヤ改正を待たずに東京撤退が決まった新幹線500系に、我が息子を乗せようと思ったことから始まる。我が息子、実は500系が大好きなのだ。

500系は、「のぞみ」以外では山陽新幹線で「こだま」として活躍する。しかし、「のぞみ」として東京発着するのは1往復だけとなった。

そこで、家族3人では初となる新幹線旅行を計画。せっかくなので、ふくちゃん自身も1999年の「[麺類紀行](#)」以来10年ぶりとなる高松へ行き、うどんを堪能することにしたのだ。

当初の計画では、東京発では唯一となった500系が担当する「のぞみ」29号で岡山まで行き、瀬戸大橋線の快速「マリンライナー」に乗り換えて高松へ。駅前のホテルで割安なファミリープランで1泊する。

翌日はことんで琴平へ向かい、金刀比羅宮を参拝。午後には高松に戻り、「マリンライナー」と新幹線を乗り継いで東京に帰ることにしていた。

いったんこれで切符を手配していたが、せっかく高松に来ているので、高松発の寝台特急「サンライズ瀬戸」で帰ることを決意。ツインルームとなるサンライズツインが空いていたので、帰りを新幹線から「サンライズ瀬戸」に変更した。

これで、当初は1泊2日の旅行が、車中泊も含めて2泊3日となったのだ。行程的にも「鉄分満載」の旅行といえよう。

いよいよ旅行当日、これより2泊3日の旅の始まりである。「のぞみ」29号は東京12:30出発だが、車内で食べる駅弁の調達などを考慮し、出発の1時間前に東京に到着した。

駅構内で駅弁を購入し、500系の入線を待つ。ホームの先頭には、残りわずかとなった500系の東京入線シーンを撮影しようとたくさんの人がいた。

12:13、上りの500系「のぞみ」6号が到着。折り返し「のぞみ」29号となる500系を、我々も撮影する。

12:30、  
東京を出  
発。早速、  
車内で弁  
当を広げ  
る。

しか  
し、我が  
息子はせ  
っかく買



ったアニメキャラの弁当をあまり口にしない。実は、このことが今後の伏線となっていたのだ。

三島を過ぎると、右手に富士山が見えてくる。天気がよいため、姿も美しい。

その姿を納めようと、車内では携帯電話で富士山を撮影する人が多かった。あちこちで「カシャッ」「チロリローン」とシャッター音が聞こえてくる。

静岡通過時は、静岡在住の友人にメールを送る。「すみません、ちょっと通りますよ～」と、縄張りを通り過ぎるときには恒例となっているのだ。

名古屋、京都と停車し、新大阪に到着。ここから山陽新幹線に突入する。

山陽新幹線区間では、500系の真骨頂とも言うべき300km/hを出せる区間となる。以前は姫路―相生付近で300km/hを出し、車内にも「ただいま300km/hです」と表示されたが、今回はその表示を見ることができなかった。

表示をやめたのか、あるいは実際に300km/hに達していなかったのかは不明。でも、300km/hは出ていたような気がする。

岡山に到着し、今まで乗っていた500系をお見送り。乗った列車を見送り、「バイバイ」と手を振るのは我が息子の日課である。

在来線ホームに降り立ち、瀬戸大橋線の快速「マリンライナー」45号に乗る。瀬戸大橋線も開通20年を迎え、10年前に乗った車両も入れ替わって



いた。

「麺類紀行」での乗車の際は結構混雑していたが、今回はそれほどでもない。家族3人ボックスシートを確保することができた。

16:12に岡山を出発、一路高松へ。途中、児島で乗務員が交代し、いよいよ瀬戸大橋を渡る。

嫁さんも瀬戸大橋は渡ったことがないので、その規模に圧倒。我が息子も、感動していたようだ。

瀬戸大橋を渡り終え、17:05に高松に到着。10年前の高松駅は改装中だったが、すっかりきれいになったのには驚いた。

さらに、駅前には広場ができていたのだ。以前の駅は玉藻公園（高松城）の目の前だったが、付近の再開発で奥に引っ込んだらしい。

さて、今回の宿はその再開発地区「サンポート高松」にあるホテルである。ちょうど、かつて高松駅舎があったところなのだ。

高級ホテルであるが、ファミリープランで割安になるのでちょっとだけ贅沢。今回は、玉藻公園やフェリー乗り場、屋島などが見える東向きの部屋である。

部屋に荷物を置き、早速本場の讃岐うどんを食べに出発！ この模様は [こちら](#) をご覧いただく。

[\[トップページ\]](#)



2010年1月11日掲載

## 讃岐紀行／我が息子が！編

今月の「つれづれWEB」は、家族3人で行った「讃岐紀行」をお送りしているが、今回はその2回目。前回は[こちら](#)をご覧ください。

高松に着いた我々は、本場の讃岐うどんを堪能すべく高松駅へ。駅の2階にあるうどん屋に入る。

うどんを注文すると、5分もたたないでうどんが出てくる。早速、うどんをいただく。

10年ぶりの讃岐うどんは、やっぱり美味！美味！美味!! まさにこの歯ごたえ、のどごし、味なのだ。

やはり、はるばる高松まで来た甲斐があった。嫁さんも、同じく本場の味に魅了されていたのだ。

しかし、我が息子はあまり食べようとしない。旅の疲れなのか、眠いからなのか、食欲がないようだ。

我が息子の体調も考え、うどんを食べ終わると早々に引き上げる。そして、駅の隣にあるスーパーで買い物をし、ホテルに戻る。

部屋でも、我が息子の体調は芳しくない。触ると熱があるようだ。

再び駅前のスーパーへ行き、体温計と氷を購入。体温を測ると、何と38℃を超えていた！

このまま熱が続けば、翌日のこんぴらさんは行けなくなる。何としてでも熱が下がって欲しいのだ。

しかしながら、熱は下がる気配を見せない。我が息子の体は熱いままである。

ホテルの案内を見ると、氷枕の貸し出しをしてくれるとのことなので、フロントに電話をして氷枕を借りる。だが、それでも熱が下がらない。

私も、我が息子が心配で1～2時間に1回は目が覚めてしまった。おかげで、夜はまともに寝られなかったのである。

ついに朝を迎えた。ホテル近くのドラッグストアを調べ、朝一で解熱剤を買いに行くことにしたのだ。

最寄りのドラッグストアは、ことでんで2駅隣の瓦町駅前にあるらしい。そこで、我が息子の快復に備えて高松築港でことでんの1日フリーきっぷを購入し、瓦町に向かう。

1日フリーきっぷは1200円で、高松築港—琴電琴平を往復するだけで元が取れてしまう。そのため、こんぴらさんにはフリーきっぷを使った方がお得なのである。

瓦町に着き、開店直後のドラッグストアへ。子供用解熱剤を購入し、店員から「新型インフルエンザには使わないでください」と言われる。

薬を持って、ホテルへ。早速、我が息子に飲ませる。

保育園のママさん友達の情報によると、保育園でも8人が発熱で休んでいるとのこと。もしかすると、我が息子もそれに関係するのかわ?

ところで、チェックアウトは12:00なので、いよいよ判断が迫られる。こんぴらさんに行くか、あきらめるか……。

結論は、「こんぴらさん中止」。フロントに事情を説明して、滞在の延長を申し出る。

18:00以降も滞在するのであれば、1泊分の料金が発生するという。なので、何としてでもそれまでに熱が下がって欲しいのだ。

一方、我が息子は熱でぐったりしており、ほとんど寝ている状態。でも、解熱剤の効果で体温は37℃台まで下がってきた。

快方に向かってきたこともあり、夫婦交代でホテルの近所を散策。嫁さんはサンポート高松にあるうどん屋で昼食を取った。



ホテルの近所を散策。嫁さんはサンポート高松にあるうどん屋で昼食を取った。

私は私で、部屋から見えたフェリー乗り場を見に行く。そのついでに、ここぞとばかりホテルの写真を撮る。

まずは玉藻公園側から。続いては、高松駅側からの写真である。



ホテル滞在中にテレビを見ていて気づいたことがある。ローカルニュースで登場するお天気カメラの映像には、玉藻公園とこのホテルを含むサンポート高松のビル群が写っているのだ。

夕方になり、我が息子の体温も順調に下がっている模様。37℃台前半になり、本人も元気を取り戻してきた。

この分なら多少連れ回しても大丈夫だろうと判断、17:45にホテルをチェックアウト。フロントには最悪の事態に備えて病院の紹介をお願いしていたのだが、杞憂に終わったようだ。

滞在を延長したので、延長分の室料が発生した。今回の旅行では、虫の知らせかあらかじめ多めの現金を用意していたので、何とか対処できたのである。

荷物を高松駅のコインロッカーに預け、高松市の中心部、瓦町にあるうどん屋へ向かう。続きは [こちら](#) からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



2010年1月21日掲載

## 讃岐紀行／サンライズ瀬戸編

「讃岐紀行」と題してお送りしているが、今回は最終回。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれからどうぞ。

高松築港から、ことんで2駅の瓦町へ。本来なら、終点の琴電琴平まで行くはずだったが、我が息子の発熱により断念せざるを得なかった。

駅から徒歩数分で、目的のうどん屋に到着。中に入り、釜玉うどんを注文する。

「お時間ちょっといただきますよ」と店員に言われたが、3分ほどでうどんが出てきた。そういえば、讃岐ではうどんはファストフード感覚だったような……。

アツアツのうどんに卵を乗せ、醤油をかけただけのシンプルな釜玉うどん。薬味はネギと生姜だけだが、これが実にうまい。

発熱で丸1日まともな食事が取れなかった我が息子も、「うまいうまい」と食べていた。食欲も戻って、一安心である。

うどんを食べたあとは、瓦町のデパートでこれから乗る寝台特急「サンライズ瀬戸」での食料を調達する。「サンライズ瀬戸」には車内販売がなく、あるのはジュースの自販機のみなのだ。

買い物を終え、ことんで高松築港へ。終点の高松築港は、JRの高松と目と鼻の先である。

高松駅構内の売店で、お土産を物色。やっぱり、うどんは欠かせない。

また、職場には籠の形をした「名物」のお菓子を購入。駅構内でも、そのお菓子が歌うCMが流れている。

ほかにも、うどんを揚げた揚げびっぴも購入した。甘味、しお味、しょうが味の3つがあるが、一番おいしかったしお味だけを買ったのである。

一方、我が息子には行きに乗った「マリンライナー」のおもちゃをねだられたので購入。本人もたいそう気に入ったようだ。

さらに、駅の隣にあるスーパーでもお土産を購入。ここのスーパーは、今回の旅行で何度となくお世話になった。

いよいよ、高松ともお別れである。改札を通ると、駅員から「入線は20:55くらいです」と言わ



れる。

ところが、時刻表には21:11と書いてある。今日だけ早く入線するのか？

のちに調べてわかったのだが、高松の入線時刻は時刻表には発車15分前で表記されるようである。どんなに早く入線しようが、発車まで15分以上前に入線する列車は15分前で統一しているのだ。

「サンライズ瀬戸」の入線にはまだ時間があるので、嫁さんは最後の高松を満喫しようと、うどん屋へ駆け込む。我が息子も、嫁さんについていく。

そうこうしているうちに20:55となり、「サンライズ瀬戸」が高松9番線に入線。これから約10時間、お世話になる列車である。



早速車内へ。我々が乗り込むツインルームのサンライズツインは、7両編成のちょうど真ん中、11号車である。

「7両編成なのに11号車」とはこれいかに？実は、岡山で「サンライズ出雲」と併結して14両編成になるのである。

さて、車内はさすが住宅メーカーが内装を手がけただけあって、落ち着いた雰囲気である。これまでの寝台特急のイメージを覆す作りに、嫁さんも感動したようだ。

発車前に検札。そのついでに、車掌からシャワーカードを購入する。

そして21:26、「サンライズ瀬戸」は高松を出発。部屋の明かりを消して、暗闇の瀬戸大橋を渡る様子を堪能する。

途中下り列車の遅れでノロノロしたものの、定刻より3分遅れで岡山に到着。ここで出雲市からやってくる「サンライズ出雲」と連結する。

岡山を過ぎ、シャワーへ。先ほど購入したシャワーカードがないと、シャワーが使えない。

シャワーの時間は6分間。途中お湯を止めれば、



その分の時間も止まるようになっていた。

6分は短いように思えるかもしれない。しかし、実際には十分すぎるのだ。

部屋に戻ると、スピードは130km/hに。台車脇の部屋ということもあり、走行音が子守歌のようだ。

神戸、大阪の町並みを見て、横になる。しかしなかなか寝付けず、浜松までの記憶があった。

でも、次に記憶があるのは熱海。ほぼ静岡県内を寝ていたことになるのだ。

そして、本格的に目覚めたのは藤沢。旅もいよいよ終盤を迎える。

多摩川を渡り、品川を過ぎ、終点東京に定刻7:08に到着。朝のラッシュが始まる直前である。

この日は予想外の雨。旅行期間中は雨の予報が出ていたが、直前の予報で好転したので傘は持ってこなかった。

自宅に到着後、我が息子をかかりつけの医者に診せる。すると……新型に感染していたのだ！

今回はこんぴらさんに行けなかったが、次回はぜひともこんぴらさんへ。リベンジを決意したが、果たしていつになるだろうか？

[\[トップページ\]](#)